



名政

年去皇

用房島田

和株の木は葉も似る芽独活か 及嘯

深き川にみ立て 嘯 岷水

言木履そく出代の露忽して 水哉

柳乃ちりも交るあしお 季白

若柳して望みはくふおの月 兔角

まより連なる 石連とも 杜若

借所の房も踏ぬる直して 露并

きし出りあや内女はれ 朧月

歎冬乃苦きえせしる使者の表 肝聖

くつと歎あすこし紐は下 冥冥

長文もまきこきある七ツ室 嘯

廊を出て 季あれぬる 水

乃乃こきを琵琶もはむ月のあ 哉

まを候乃あめら下き路 白

指ひくく鹿おふ声の扱ひすくく 角





常念仙乃うきれす
 醜圃より花を度れや并常
 よん新其や年の持てある
 月 竹 在

水哉
 秀并
 汗里
 良笑
 杜若
 李白
 栢月
 急角
 岷水
 及雷
 也為

午集

周三井

再取笑

也為
 不及
 持竹
 巴月
 及睡
 保余
 孫心
 易曉
 郁を
 一止
 有太
 以唱
 坊
 太
 余

おのゝ押あゝ又お出る 高
ちろろくちろろくみこ花のまこ 院
敵い處乃中く 元梅 月

おのゝ帯はあゝ 荷花 持井
ま乃衣の肌是らく 荷あき 静山
折候てひく杖押 一乃板 百曉
ひささきや美毎く 隠候 巴月
ま柳やまきく 止乃鞋打 一止
白美戸系く 水く足方い 隔余
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 又政
柳まきや端 正あゝあゝあゝあゝ 有太
まあまの美や 兼標の白あ比 以喃
あ乃あ乃あ乃あ乃あ乃あ乃あ乃 郁ち

わん子の笑道を連て

草やま乃あゝあゝあゝあゝあゝあゝ 有柳
あ乃あ乃あ乃あ乃あ乃あ乃あ乃あ乃 不及防

素梅はカ

年去屋層突 周 系

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 未北
日あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 宜中
大肉山天のあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 倉塔
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 止致
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 多風
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 彫文
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 蒼白
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 砂川
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 花耕
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 柳る
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 志林
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 布山
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 三系
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 中
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 振
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 文
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 林

是を子色と云ふ乃ちう遊 北

永きりや舟政ゆくう勢田は 止致

又遠きと踊る矣あり信川 彫文

苗代やり毎くの水加りむ 花林

まるとや霧もちうおる白 花耕

草若くし陽をり申る 高風

海翁やちまたも 蒼白

くるともいん 浄白

青のくお懐けけり 砂川

指たむるをえさく 三糸

たへんもよん 有山

実客を招て 宣平

多も来り遊を修め 花巻

まお目乃ぎくも 倉祐

捨り 捨也 空をひらめり 出雲

り状を發す



午去 用花丘

不朽形一周忌

踏走もるもの申く 梅子 遠吐

漸ほやよるよ柔のひめき 花崎

斜に身を果すと懐ぬ 梅南

おとらもやそん 柳候

お文く由とらる 勇青

お忌みくく 禹棋

留あよおつり 汀登

正 梧井

辛苦く 正人

悠年乃あり 和乐

今の世も 茶葉

忌あを 春翠

二代月の 青

情あらし 乐

君より川くさのまきおの 壺
武士の花さく守那原の糸 葉
んせ余年()なる幣 棟

物年乃乃瓜()をさる田()子 弟青
白美花目を掛()う榊の水 梅浦
花乃()糸()あ()う出()子()独()信()芽()い() 禹棟
連()葉()や()柳()と()祐()を()川()く()く 正人
サ肥()を()ん()ど()く()う() 幣()幸()夫() 柳()咲()
草()を()立()や()を()れ()あ()う()う()花()乃()咲() 和()乐()
あ()ま()く()角()す()相()り()楳()そ() 篠()月() 指()井()
榊()枝()や()野()こ()い()何()う()ひ()と()を() 汀()路()
下()を()て()游()止()る() ひ()も()う()う()形() 茶()葉()
せ()あ()き()や()際()の()か()を()う() 侍()ん() 花()遊()
師()を()ん()名()折()を()う()ま()石()乃()傳() 不栢町書 善()友()
刺()ま()う()て()お()を()は()れ()し()ま()を()花() 也()高()
三橋台

戊午去 周徳山

素山法師の精師をさる 也()高()
花乃()ま()世()を()而()水()乃()ん()う()か 素()山()
橋()下()も()一()敷()去()乃()隠() 麦()園()
去()度()て()春()を()る()は()れ()あ()う()う() 萩()露()
又()も()を()れ()す()井()戸()之()の()子() 辰()白()
お()前()の()徳()人()を()る()ま()夏()の()と()は() 悟()一()
お()人()カ()の()後()乃()月()哀()あ()う() 李()杏()
素()あ()う()さ()ま()ふ()麻()の()秋()も()さ()う() 木()矣()打()ち()あ()る()木()の()得()れ()た()信()
本()ま()ん()後()の()空()也()乃()は()作()ま()て 如()楓()
終()日()又()も()ま()ま()う()ぬ()室()お() 如()叶()
娘()振()子()山()田()の()町()乃()り()辰() 如()然()
探()く()し()ま()る()人()の()さ()う()ら()ね 如()空()
息()の()月()氣()の()先()あ()る()身()輕()板() 浅()芝()
自()ら()ん()い()か()町()を()掃()る()教()入() 又()志()
侍()の()か()を()う()し()ま()も()あ()る()あ()う()に 又()志()
り()も()あ()う()ぬ()は()田()乃()う()う()平() 又()志()

舎らうき新あきお世の村いれ
可書

坊を何さまのさてもおん
可極

甘房子うきい我おも態を
杉子

船救多和田の岬うけはき
杉子

二段式さりの口ねを
教月

書うら山崎と重の
高川

二親おんあひい書子
高学

何をあききの投島田
梅逸

新うの寸万子の心ら水
梅全

未央の柳うけ初る
梅彦

月出う丁の便を待て
梅彦

かむけうらるる木桂乃
侍山

地獄より難り難終
高

相あうむる蘇乃立山
白園

初路の霞うきき書乃花
一 報

汲うううう 柘枝 石色

信をきて吸掛ううう矢の花
高川

あううの枝はうううの書う
高川

世あうやあうう知れ花の中
高川

而の目もさうさうに木川乃
高川

あうの内にさうさうの書
高川

あうやう信をううう
高川

あうううやうううう
高川

あううう信をううう
高川

あうのひううう枝のある
高川

はあうやううううう
高川

あううううううう
高川

あうの果やううう
高川

あうのううううう
高川

あうううううう
高川

満月や櫛乃浮出るえ乃口 栞令
 夕光のたつ時きー見ひら花 花屋
 走つてくゝあし打く怪るあ 可憐
 老あらね侍て病のらるれ猫 猫一
 まるや豆踏乃あゝめさ大徳 高子
 流あゝあ乃流くやけせう子 花奴
 あや乃乃角もたきん夕 如谷
 初をうけて丁の福ややう空 栞逸
 果もあゝ不二乃様ひく産子 如結
 雪浪の滝又あしをちの山 文芝
 あゝやあゝあゝえろ山乃水 信芝
 まるの伸縮あゝ几中の糸 栞屋
 栞れ中やきんえゝあゝ娘の子 孤郭
 畑あやまゝ正月の解力 麦園
 時は乃花もさやん信大根 如高
 めあ
 白くやこまゝ花をまぢち屋 赤山坊
 東橋分

滝飛川眺望

周山色

君あやや花毛飛てむすひ玉 軽乐
 栞あゝあゝあゝあゝあゝあゝ 玉水
 老木跡の雲もも余も老栞て 可憐
 糸乃乃位ひの多きを突くさ 千枝
 あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 李月
 西玉の流れ北来乃評判 玉風
 あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 陸侯
 年乃あゝあゝあゝあゝあゝあゝ 雅亮
 玉乃あゝあゝあゝあゝあゝあゝ 可音
 きのの枝もゆるあゝあゝあゝ 芙蓉
 さあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 菴笠
 子月乃あゝあゝあゝあゝあゝあゝ 序友
 衆あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 牧二
 又あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 敬之
 初てあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 水
 多て由く財氣をほくくくく 水
 庭子あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ 君

那貝乃勢如 長き揚揚 之

一階り 燈列々 とうあ申 湯候

あつたきよきまねく 登途美 難亮

悟りし備の戸 残るあ申也 上風

汲き美のさしちも 街き信世系 李月

若く申お宿文あや 街とら 千枝

あんのうとほる 加やのちあ申 可燒

若く美や 思をとり 裁 坂之

協本を 孔あすあ申 裁 牧二

ちううとほる 又ちのち申 序友

若くあつたきよきまねく 中き美 可言

何申のまら けきまねく 思くお 芳相

逆登る舟乃 あつたきよきまねく 若くあ申 蒼登

汲き美や 常より 列々 小せり 玉水

年美子乃 琴乃 抱き へん 備の系 美琴

若くあ申や 備乃 致す 子きを 出高

未摘芳

午去 周防抄

古棉と墨智の巻を 傳りて 蓋後也

牡丹屋の 厨燒を 終りて

御書も かく 一 なる 系乃 ちた 出高

録々 なる 門乃 松介 眠抄

若く申 へ 世持 能 辨 け け 出云

お流 ち ぬ 舟乃 石 船 衆舟

往つ 来 川 今 子 ち 懸 け 信 の 月 以風

枚 尾 ち 浦 志 の 貨 乃 入 之 百劫

若く ち ち 未 ち ち ち 丁 の 文 使 風子

う ち ち ち ち 配 ち 乃 信 の ち ち 松 交院

岩 角 ち 陸 を ち ち 信 ち ち ち ち 也 春

ひ ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち 尚古

蝶 乃 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち 布井

詮 乃 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち 伊方

八 人 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち 孫朝

川 風 ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち 菫

病てをねい水旱の事そねて

夏徳る為りて乃神

瑞送の花をあるの草花

わう乃老く種くたり

そるそくそを初りさく山

美傳一合るを居てくお樹

少乃果するんえりて屋系

枝強るねりまきやまの山

維あくやわたの中よりえおる

白紙千目のとまきくまの目

追ぬ部くあておたり上平美

市をふる屋よやせくる君業系

あすあし一而の新傳より柳

海業よりおふる而乃事くお

備初や伝きく種くは乃西

成る事のふるもは樹の村

新

竹

古

舟

幽玄

如花

風子

孤影

以風

尚古

伊香

百知

有竹

女院

衆舟

賦独

系橋分

年去

兼仁居士追福

周島地

琴乃老く竹おああり種自

初おかきり種る 舊草

難烟より祝ちる身乃出く

抄之又も出さぬくお

種言く存を中くかけけ

引て古きを種子根合

云衣名氏種千屋く子

かけてひくおおる神恒

梅梁乃老くを名ありて見遠

新持ある 種癒乃痕

強心振去る角力比おる遠

那美より中く君名竹

新身を老くおれ一老乃月

独るそくそく一文化

送竹

舊紙

有梅

梅坡

梅二

舟舟

舟舟

李牧

友花

夏有

疑

梅

波

二

船も来てよそよそなる 柳を

舟

近乃地帯に登る ちかく候

牧

建勢年候なる 花乃香之石

有

我も能はるも 一川しその花

花

若葉のけしき けしき 水の舟

舟

さくも おもあはれ 水

舟

川さけ 花はわら 柳を

花

清あつと 花をさる 舟

舟

花の香を 柳に 乃 胡蝶を

柳

早や 出て 又 早や 田打

李牧

早や 出て 又 早や 田打

友有

秋一も 花を 柳に 乃 胡蝶を

柳二

秋一も 花を 柳に 乃 胡蝶を

花

まじりてや 花を 山乃花

舟

牛去

周山口

霊陽山再行の切合相い佛法

慈業のあり候を記して

花乃中 花乃山 花乃山 花乃山

花高

花乃中 花乃山 花乃山 花乃山

花

みき 道なる 自 男 花 乃

耕文

大もの 出と ありの 月 影

友友

人 奇て 移る なる 花 乃

栞史

出 紅 花 あり 花 乃

梅止

花 乃 の けしき 花 乃

花

花 乃 の けしき 花 乃

花

花 乃 の けしき 花 乃

花

花 乃 の けしき 花 乃

花

花 乃 の けしき 花 乃

花

花 乃 の けしき 花 乃

花

花 乃 の けしき 花 乃

花

花 乃 の けしき 花 乃

花

卯辰の月も岩ぬ 膏粉 水
 んのきくく行辰和火 止
 龍うきと碎ぬ後傍の掌市 湖
 力色を天子 初る 螺牙 芭

昔夫もつ對ふぬ 龍乃布 耕支事
 草解や嫁の帛紵工宿を呈 夏友
 陸くや膝る肘もをたけ油 梅史
 地花もを門 枝の除敷つまき 誇湖
 川隈のあま思ひり 藤粉 耕止
 新うんはけら後へ 雲山 芝扇
 折くも真約あくる 柳之介 喜芭
 一かまくる垣言一 榭柳 夏嫁
 去るや花ある 伏家の為 烟 巴水
 菓の花や雪もわらふも 去乃色 誇化坊
 肉をくぬ花をぬくも 大根う介 麦園

巳去初老笑 石尺廣石

龍乃あつたうもく 虎系 曲高
 辰よりお日石 石雲水 王喉
 揚をきく雲あくる 雲余より 雲鼓
 百没れを 白せくこのむ 雲二
 和承う末と尚 柳葉の故 朋案 炭波
 微く事を 移く 南氣の月 可耕
 乱るも 辰を 折く 袖もあ一 俵面
 翁も 獨りも 若き時く 沙角
 龍るも 為 神 中 の名 吉 冠 帯 雲梅
 海もの 傳へ 後 衣 を 玉 瓦 梅
 舞の あと 玉 介 き る 乃 時 多 池 水
 平地 少 亭 乃 傳 せ 神 垣 呈 烟

去るも 如 や 往 來 女 人 の 街 く 雲 鏡
 梅 ね ば 末 こ 足 歩 け 古 社 池 水

新しき路次下終市川柳花 其間
 病に工穿くも新乃柳うか 假百
 雪より中通玉下し 柳北下 高梅
 清和やよき如て成る 殊行初 善晚
 市をさもおも湯きぬ田より 故梅
 去るや咄人の来る 柳工少家 可耕
 浮雲のこぼれもあし 権月 友波
 漸おやまぬこね乃 為もや 郷二
 又細くも山も 床しき 鹿子 少角
 ちりきくや門く 又雪 紅蓮友 王雪

句役

春乃名何ぞ 春我の君景指 里康
 春下終りあきぬ ぬるも 善翔
 寸尺を人よとらぬ 市乃雪 若暁
 算用の卯を雪あふ 所まゝか 麦園

春梅園

年表

石田丸

獨ある儂くむら 来より 鷲 地高
 元氣條 皆く川 栗この柳 善翔
 穂引乃来るも 牛二鞭打て 化考
 人をさうさう 我あひより 可高
 今長のやうぬ 今度の角力豊 衆有
 目もあやもかき 踏の石 杉船
 袖をたぬ 志ありはむ 家良の代 市和
 感あるも 今乃 佛は 風翔
 化あし 木折 降る子 柳よか 席持
 たつ 思ふ 山王乃 妹 侯月
 歌を聞くと 乃まは あり 追て 高
 波をえとて つかむ 霞 西 翔
 あつれを 春柳乃 松の夕嵐 考
 能のなま 行ある 娘乃子 水
 初歌 春より 柳く 立 旗

道通了西行住む花月
福よちあらし去乃や瓦
而 翔

晴く乃秋て病も花昔
苗代に翔てふかく物う糸
新の名を竹に其あや桐花
弱さ身乃更ふり糸一葉新
雨う流く断るもく糸桐
折さくや日く糸う草の波
山多の岸上の糸やさく
短乃春や去て山越てきく
柳乃中や海舟皆帆を舟
化者

授めも力あそり凡中の糸
去あゆや松を花も糸後
御茶やゆふ海苔乃如本寺
麦園

永徳分

戊午春 石桂卒

松兮舎何文居士追福

わすくふ草乃中の二系麻 遠心
美とくくく川屋乃以香 以之
耕さたおす丈婦を糸を短て 化者
あまの物中もよん娘女に 唱る
強くて灰る月秋のちうく 桑未
少乃るこれのそ秋乃花すう 和凡
我も亦はる散海きとり一葉 倭呂
早に中よ去あうく 己松
又も来て之井の入お世の宮 百製
袖引きて 帰る日ん 苦相
と念く喧嘩をすもくたアの灰 牛二
末社にそ一葉もすむ 首一
古市に冥住すあて親てろ 花園
昔信田乃化をあもり とう
経ね乃月明をむ山のそく 何号
時をさくた大長及 何言
老好乃の鳥新く信乃花 二

くさくさめくとき天をうら
之

開帳のねをねる柳うさ
竹屋今や段の懸る大いそ
吉きせたり階盡於下は下
ふふの空をそとくぬけ下
ゆききき少袖を之門を
その胸あるまや柳さくく
糸懸糸を信する味に空の花
まぢやや佳く泣を捨てしり
世経やあくの尻乃所如
み樹の垂るこりく花のそ
出代やうめあをてりて
義入や芝原風を伍衣柳
鳴るんて空さくくく猫乃意
月を日ユはきを捨く山さく
橋あし橋をくく山路系
空を殿乃帽子をて出る彼
世高

東橋系

丁巳秋

石 吳徳地

砧菴若水居士書

ちるも柳屋まの介所居乃月 送吐
山をたきくく 桐く後帛 奠末
上を乃乃とあまうく木乃子招 友架
はくくくくくくくくくくく 吾友
あまをくくくくくくくくくく 李吹
拾打しある初差を引ぬきし 衆抱
千石丸と後れ 応丹 た子
後女乃にはさくくくくくく 以之
いふある人や二世を信く 年二
神くの岫をきく 大社 福百
まきき往來の考まきく 後 風席
世松乃乃打まぬる為 京 吾竹
款をさききくくくくくく 二おま
拍子木乃考すしはくく大用ん 爲熟
世の病の君の今考まきく之ツ 世松
黄屋くくま世の考考乃考考 化考

三子と四子も皆茶煙く 子

世方も皆 鹿のおこむの声 ^{ツク} た琴

川流るる流るるを流るる子 年二

折あふ中より川あり花 為 福る

残る霞や霧を掃きまふ船の燈 ^五 二好

日乃影や 潮系 光る 橋の露 化者

さくさく草といもれり 世業の 以之

振袖乃 何忘も 周りをとく 必作

露地への 袖より 巾着の花 里松

踏むゆく 藤さく 揺る 爲う子 風序

風を 雲の 入る かく 圓扇の 有朝

下は 春の 泉の 外より あきの花 たる

葉の 影の 新き 一より 秋の とき

花の 実の 満き けき 秋の 衆抱

琴の 穿る 影ある 揺る 石の 李吹

過ぎゆく 葉の 揺る ある 夜を 哉 吾友

をた 来て 山の 井 濁す 木の 葉を 奥末

老あはて 子を うむ 玉 泉の 流る 那 出高

泉橋分

不登田

戊午の去れ 世業の 今 とき あり 甚危

人々 世の中 己 己を 己の 世を 持て

をこころ しく くら たり せむ せむ ぬ

居る 居る ぬき ぬき ぬき ぬき 嘉心

たそ ぐさ けい けい けい けい 灯吊

春風 乃 帆を 巻けり 春 抱きて 芳曉

おもしろ 人乃 人乃 惚れ 魯白

八文 世を 出さる 甚 風呂 萱雨

曇る 世を 出さる 甚 風呂 佳賢

酒の 世を 出さる 甚 風呂 其牛

んく 乃 甚 乃 甚 乃 故舟

曉 結ぶ 子 世を 出さる 甚 乃 如柳

八家 乃 宗の 曹 乃 宗の 曹 乃 自任

何る 世を 出さる 甚 乃 宗の 曹 乃 一枝

舞衣 乃 世を 出さる 甚 乃 宗の 曹 乃 出高

舞衣 乃 世を 出さる 甚 乃 宗の 曹 乃 節

居ふくあを夢あらしや
 雨の夜乃鹿歩るわら山田中
 我も老ありし昔の袖を
 一きしを昔昔の花乃并扇
 すすみの後まを余り
 舟 柳 髪 白 暎

草屏や夢さるあ乃袖あを
 老菜う路やまの母子竹
 ぬ餅やされ昔老の歯きし
 猪を食ひ皆白髪よ老の友
 かしらちや人よ入歯と髪色
 并西や彼髪くく干せ
 髪乃白やぬきりも老く
 彼をすあをの老や巴字の
 ハゆり髪をまひくう柄履
 うるさき髪色をまへ柳の
 解ゆらあまきけや柳柳
 世為 位髪 舟舟 一枚 有佳 夢為 夏斗 魯白 如柳 夢暎 打節

夢為